

# 環境保全報告書

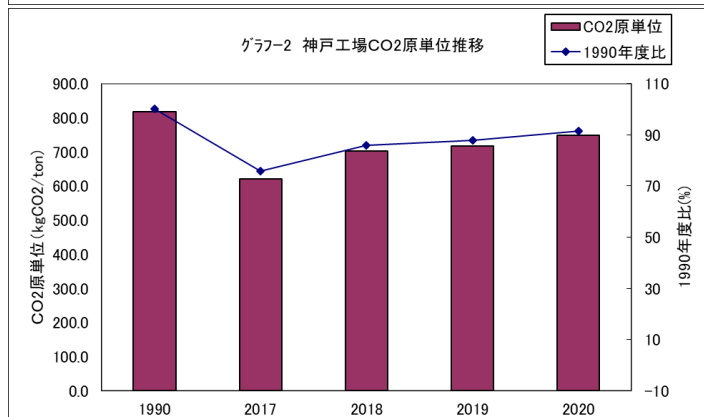
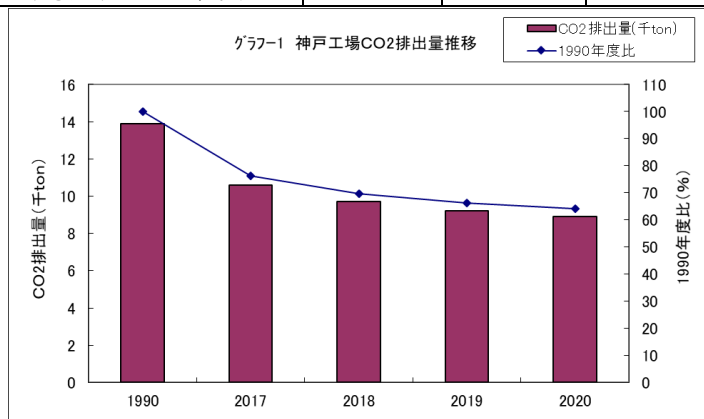
## ① 2020年度の重点取組目標・計画の実施状況

### ア. 地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

CO<sub>2</sub>について、燃料、電力の省エネルギー、燃料代替（CO<sub>2</sub>発生量の少ない燃料使用）などを通じて、排出量の削減、排出原単位の低減に努めています。当社では、CO<sub>2</sub>排出量を『1990年度比10%削減』を目標に取り組んでおり、2020年度の実績では、表-1に示すとおり若干排出量が減少しており、近年4年連続して1990年度比20%以上削減を達成しております（グラフ-1）。但し、CO<sub>2</sub>排出量原単位についても、都市ガスへの転換以降、販売量漸減とともに製造量が年々落ちているため微増傾向にありましたが、2018年度は計器室統合に伴う大幅に製造量が低下し、2020年度も販売不振による製造量の低下により、昨年を引き続き上昇する結果となりました（グラフ-2）。

表-1 神戸工場CO<sub>2</sub>排出状況

項目		1990年度 (基準年)	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
製造量	(千 t)	17	17.1	13.8	12.9	12.0
工場 CO <sub>2</sub> 排出量	灯油購入 (千 t)	10.4	0	0	0	0
	都市ガス購入 (千 t)	0	9.6	8.8	8.2	8.1
	電力購入 (千 t)	3.5	0.9	0.8	1.0	0.8
	合計 (千 t)	13.9	10.6	9.7	9.2	8.9
	1990年比 (%)	100	76.3	69.8	66.2	64.0
工場排出原単位 (kg/t)		817.6	620.0	702.9	717.7	748.2
工場排出原単位 (kg/t) 1990年度比		100	75.8	86.0	87.8	91.5

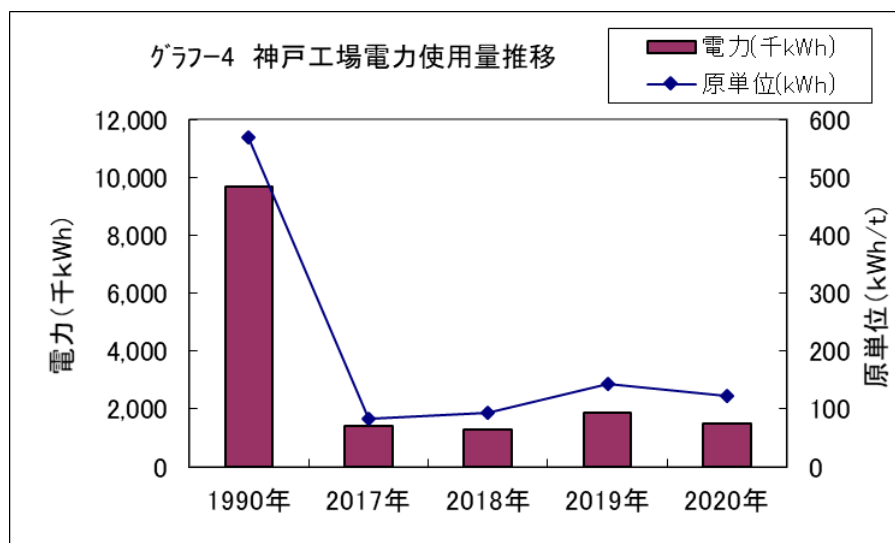
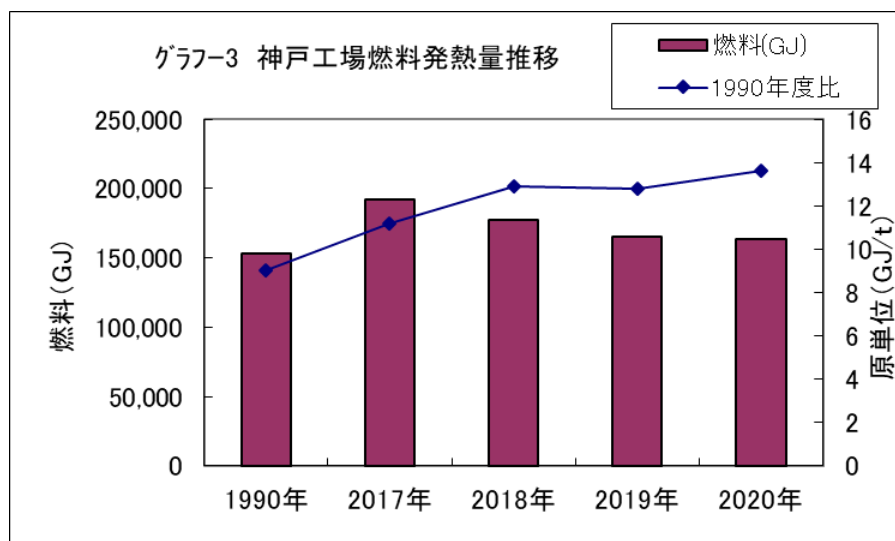


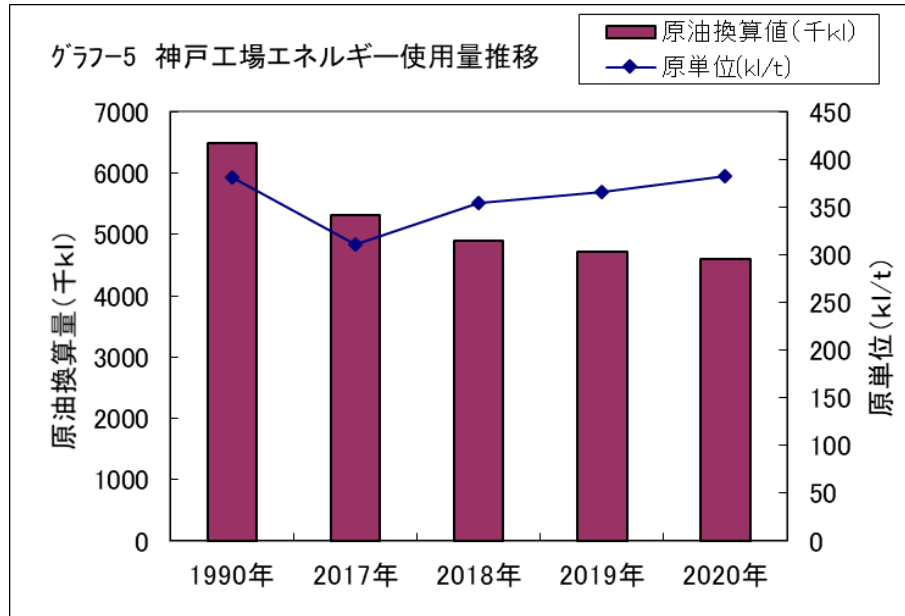
## イ. 省エネルギーの推進

2000年にコージェネレーションを導入し、以降小型貫流ボイラーの設置、熱媒ボイラーを各プラント付近に移設し経路短縮を行い、大幅な省エネルギーを達成しました。その後、小型還流ボイラー及び計装用コンプレッサーの省エネタイプへの更新、不良トラップ更新、蒸気漏れ改修、エア漏れ改修等実施しエネルギーロスの削減に取り組んでいます。製造量が年々落ちている中、エネルギー原単位は頭打ちとなっており、今年度はコロナ禍の影響も大きく、1990年度比でも微増となっております。(グラフ-3, 4, 5)。

表-2 エネルギー使用量・原単位

項目		1990年 (基準年)	2017年	2018年	2019年	2020年
製造量	(千t)	17	17.1	13.8	12.9	12.0
燃料	総量(GJ)	152,966	192,321	177,566	165,046	163,579
	原単位(GJ/t)	9.0	11.2	12.9	12.8	13.6
電力	総量(千kWh)	9,671	1,434	1,280	1,859	1,484
	原単位(kWh/t)	568.9	83.9	92.8	144.1	123.7
合計	原油換算値(千kl)	6,489	5,321	4,901	4,723	4,591
	原単位(kl/t)	381.7	311.2	355.1	366.1	382.6





② 公害防止対策に係る報告

ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

策	目 標 項 目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
大気汚染防止法対策	ばい煙(ばいじん、窒素酸化物等)、有害大気汚染物質の年間総排出量の把握と排出量削減	ばいじん、窒素酸化物の年間排出量を把握。有害大気汚染物質は発生なし。	◆良質燃料(都市ガス)に転換済み。硫黄酸化物は発生しない。
	ばい煙の排出規制の遵守	年に2回の排ガス測定時において、排出にかかる目標値を測定結果が満たしていた。	◆排ガス処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、引き続き目標値を順守する為、「大気汚染防止実施規程」の見直しを行った。
水質汚濁防止法対策	(公共用水域に排出する場合)		
	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	排出にかかる目標値を、月間で全ての測定結果が満たしていた。 (測定結果は別途報告)	◆活性汚泥菌濃度の適正管理により、排出水の水質は年間を通して安定しており、排出水のCODは、年間平均で、前年に続き本年度も8.4ppmと安定していた。但し、豪雨や台風の時期、その他の影響により、通常の数値よりもCODが上昇する日が数日あった。(全て管理値内) ◆製造工程改善による燐使用量の削減を検討中。
	富栄養化防止対策の推進(窒素・燐の排出量の削減)	窒素・燐の年間総排出量は、総量規制値以内を遵守できた。 (年間排出量は別途報告)	
(有害物質を使用している場合)			
	地下水汚染の未然防止	事業所で使用している有害物質(1,4-ジメチル)による地下水汚染は認められなかった。	◆有害物質等も地下水浸透による地下水汚染を生じることがないよう施設の維持管理を行った。
悪臭防止対策	法令等の基準の遵守	近隣地区からの臭気クレーム発生なし(敷地境界での臭気濃度は遵守できていると予想)。	◆排出処理設備に設置した触媒燃焼式脱臭装置を常時稼働させ、悪臭を低減した。

## イ. 2020年度 排水水の汚濁状態測定結果

排水口名 : 排水口1										
項目	管理目標値 ( )は規制値	測定値		全測定回数	目標した測定回数 を超過	目標値達成判定	法令基準達成判定			
		最大 (pHのみ 最小～最大)	平均							
法令排水基準設定項目 (有害物質項目)	1	カドミウム及びその化合物	0.03未満 (0.03)	ND	ND	3	0	○	○	
	2	六価クロム化合物	2020年度より、測定対象から除外 2021年度は年1回測定を予定							
	3	鉛及びその化合物	0.1未満 (0.1)	ND	ND	3	0	○	○	
	4	シアン化合物	2020年度より、測定対象から除外 2021年度は年1回測定を予定							
	5	1,4-ジオキサン(※)	0.5未満 (0.5)	ND	ND	3	0	○	○	
法令排水基準設定項目 (生活環境項目)	11	水素イオン濃度(pH)	5.5～8.5 (5.0～9.0)	6.1～7.7	7.3	235	0	○	○	
	12	化学的 酸素要求量 (COD)	(最大)	39(55)	20	8.4	332	0	○	○
			(日間平均)	39(40)						
	13	浮遊物質 (SS)	(最大)	70(130)	18	13	45	0	○	○
			(日間平均)	50(100)						
	17	窒素含有量	(最大)	15(120)	7.3	0.8	332	0	○	○
(日間平均)			15(16)							
18	リン含有量	(最大)	7(16)	3.4	1.3	332	0	○	○	
		(日間平均)	7(8)							

単位はpHを除き、mg/ℓ ND: 定量下限値以下

○ 達成 × 未達成

※: 1, 4-ジオキサンは外部分析結果を記載しております。(社内でも定期測定は実施)

変更点①: 昨年まで報告していた六価クロム化合物、シアン化合物につきましては、原料に使用されることはなく、また、過去約10年分データでND以外の検出結果が確認されていない為、定期測定対象から除外致しました。

変更点②: 幾つかの管理目標値を調整致しました。

### ③ 地球温暖化対策に係る報告

#### ア. 2020年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量(MJ)	排出係数	排出量
					kg-CO <sub>2</sub> /MJ	kg-CO <sub>2</sub>
燃料の使用	原料炭		kg	28.9		
	一般炭		kg	26.6		
	A重油		ℓ	39.1		
	B重油		ℓ	40.4		
	C重油		ℓ	41.9		
	LPG	6,300	Kg	50.2	0.0598	18,912
	都市ガス	3,628	千 Nm <sup>3</sup>	45.0	0.0513	8,375,238
	その他(廃棄物等)		kg	42.3		
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	1,483.968	千 kWh		0.523 (kg-CO <sub>2</sub> /千 kWh)	776,115
熱供給事業者から供給された熱の利用			MJ			
合計						9,170,265

#### イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標(t)	排出量(t)		2020年度削減率(%)	
	2020年度	基準年度(1990年度)	当該年度(2020年度)	対年度目標	対1990年度
二酸化炭素	10,000	13,855	9,047	9.5%削減	34.7%削減
メタン	2.25	1	3.3	悪化	悪化
一酸化二窒素	5.25	1	6.8	悪化	悪化
HFC	28.8	0	24.4	16%削減	悪化
PFC	0	0	0	-	-
六フッ化硫黄	0	0	0	-	-
三フッ化窒素	0	0	0	-	-
合計	10,036	13,857	9,082	-	-

#### ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での節電・燃料使用量の削減	節電	水銀灯、タイマーにより自動点滅	徹底	実施率100%
		燃料使用量の削減	冷暖房の適正化	夏季: 27℃ 冬季: 25℃	実施率80%
2	環境負荷の少ない燃料の選択	良質燃料への転換	-	都市ガスへ転換	2000年に転換実施
3	特定フロン等使用量の削減	代替物質への転換	-	機器更新時	-
		設備更新時に特定フロン非使用設備を導入	-	新規導入時	設備更新なし
		特定フロン等使用機器廃棄時の適正処理	-	廃棄時	設備更新なし

4	太陽光発電への転換	太陽光発電システムの導入	—	スペースの関係上、設備導入が難しい
5	グリーン電力の導入（太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱など、自然を利用した「再生可能エネルギー」で作った電気の導入）	「グリーン電力証書」を購入して使用エネルギーを100%再生可能エネルギーに変更	—	現時点では未検討
		100%再生可能エネルギーの電力プランへの切替	—	

**④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告**  
**2020年度の環境保全活動に係る具体的実施内容**

No.	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	産業廃棄物の有効利用	産廃の燃料代替化	利用率5%	燃料代替化促進中
2	事業所等での再生製品等の使用	再生紙の使用促進	コピー用紙等の再生紙利用	100%	実施率100%
		プリンタトナーカートリッジの再生利用	—	全品切替	再生利用90%
3	従業員教育	パンフレット配布	関西エコオフィス宣言 パンフレット配布	節電、節水徹底	各職場に掲示
4	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	—	月1回実施	月1回実施
5	環境管理システムの充実	ISO 14001の維持	—	定期審査における改善指摘事項 <sup>2)</sup>	2020年8月 ISO14001維持審査（神戸）改善の機会5件
		内部監査の実施	—	1回/年	1回/年（2020年9月に実施）